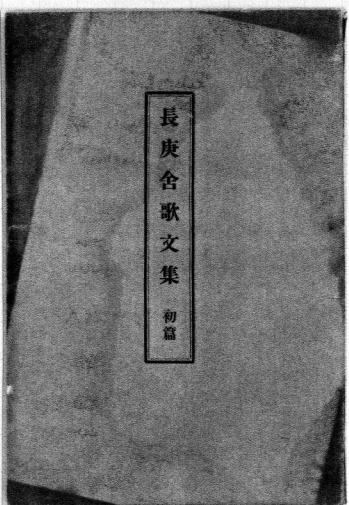


鳥山啓 （ひらやま） 歌人、國學者、英學者。天保八年二月、紀伊國田邊生れ、大正三年二月二十八日歿（一八七二—一九〇四）。諱は初の顯豊、字明卿、幼名象二郎、通稱又助、鳥助、百峽。號ゆふづの舎、夕づの屋、啓明堂、玉松の戸、蜨水、長庚舎等。歌人田所顯周の次男、田邊藩士鳥山純昭の養子。少壯本居内遠、加納諸牛、熊代繁里、何禮之等と學ぶ。また天文、動植物に精通し、寫生畫を得意とした。明治初年田邊蠶の創設に際して教授となり、専ら其學を教へた。九年和歌山師範學校教官として、理化學、博物、圖書等を擔當。十二年和歌山中學校教官と兼ね、縣勸業御用掛と兼務、植物園内に往して園藝を擔當した。十九年華族女學校教授となる。《守ると攻むると黒鐵の》で始まる「此の城」のち「軍艦」、更に瀬戸口藤吉作曲「軍艦行進曲」として流布した。の作詞者。

『紀伊國地誌略字引』（千田一十郎共編、明治十一年九月和歌山・平井文助出版、大阪・田中太右衛門發兌）の他著書多數。晩年自ら歌文を纏め、『長庚舎歌文集』（初篇・明治四十二年五月—二十二年自刊、貳編・四十二年一月—二十二年自刊、參編・大正五年一月—二十二年北海道・鳥山嶺男刊）として出版。



長庚舎歌文集 初篇